

## 第1回定例会 一般質問

## 8名の議員が市政を問う



阿久津 佳子 議員

## 市民が望む公共施設について

問 まちづくりアンケート結果では、図書館・スポーツ施設等の文化複合施設を望む声が高い。そこで、①貸し館業務のある施設の整備（修繕、建て替え計画や備品管理等）について②子どもからお年寄りまで気軽に集える多目的・多機能な文化創造拠点が必要と考えるが、その建設基本構想・計画の策定について③古河駅周辺再開発を視野に入

れた、集客が見込める文化創造拠点の整備について、市民アンケート結果を受け、今後どのように進めていくのか伺う。

答（市長）②③文化施設の整備は、過去に総合的文化施設建設が白紙撤回になった経緯もあり、市民の皆さまとの合意形成を十分図った上で、段階的に取り組むべきと考えている。文化複合施設建設も視野に入れつつ、市民アンケートの結果を真摯に受け止め、まちづくりの方向性を判断していきたい。

答（健康福祉部長）①古河福祉の森会館では空調、電気設備等は管理会社に委託、毎日点検している。消耗品や備品は利便性を考え、買い替えや修繕を行っ

ている。また総和老人福祉センターでは、指定管理者が毎年実施する利用者アンケートの意見や要望を参考に、優先度の高いものから設備等の整備を行い、備品を適正に管理している。

答（教育部長）①体育施設、公民館施設等では利用者アンケート等で意見や要望を把握し、安全を最優先に修繕を行っている。今後も利用者が快適、安全に利用できる施設運営に努めたい。

大和市文化創造拠点シリウス  
こども図書館 おはなしのへや

秋山 政明 議員

## 子どもの貧困問題について

問 日本の子どもの貧困率は先進国の中でも最悪な水準である。7人に1人の子どもが貧困と言われており、ひとり親家庭に限っては半数というデータがある。貧困状態にあると経済的にも困難になり、親が仕事に行っている時間が長く、復習や予習ができず学力が低下し、進学や就職に繋がらない。また、貧困世帯は虐待につながってしまうケー

スが高い。そこで①市の子どもの貧困の現状について②貧困問題の課題に対し、どのような解決策を行っているか③目標と今後の打ち手について問う。



答（健康福祉部長）①生活保護受給世帯の母子世帯数は平成31年2月1日現在で73世帯、0歳から18歳の受給者数は237名である。児童扶養手当支給世帯数は平成31年1月現在で1,271世帯、生活困窮者自立支援制度の相談件数のうち児童のいる世帯

数は平成30年12月現在で35世帯となっている。また、児童虐待相談のうち養育を放棄している件数が、平成31年1月現在で15件である。②子どもの貧困は単一原因からではなく、子育て世代の経済的負担や世代間の貧困の連鎖等が複雑に絡み合い起きている現象である。市では生活保護制度等による所得保障のほか、児童の医療費の無料化や虐待DV対策地域協議会の設置など、関係各課で複合的に提供することにより、子どもの貧困問題の解決を図ろうとしている。③現在実施している貧困対策の施策を、事業計画と事業目標に沿って実施し、引き続き対策を講じていきたい。